

# 多彩人財

スマートフォンで撮影した短編作品による「映画祭」が3月、インターネット上で公開された。仕掛け人が新潟県長岡市在住のアートディレクター、高野宙（ひろし）さん。コロナ禍で通常の映画祭の開催が難しい中、誰でも手軽に発表や参加ができる手段として企画した。米国で映画制作に携わった経験を生かし、映像を通じた長岡の魅力発信に情熱を注ぐ。

動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開した「長岡スマホ映画祭」の作品は16本。「あなたしか知らない長岡」をテーマに1〜5分程度の短編が並ぶ。ポスターやSNS（交流サイト）で募集を告知し、30本以上のエントリーから選出。3月7日から1週間の期間中はタイや香港などからもアクセスがあり、総再生回数は約3500回に達した。コロナ禍の折り、観客を

## アートディレクター 高野 宙氏



呼び込む映画祭は開催が困難。一方で個人でも動画投稿が当たり前の時代になり、自己表現の手段としてスマホを使う例は珍しくない。企画について高野さんは「スマホで撮影した動画は、いつでもどこでも誰でもスマホで見ることがができる。ユーチューブをプラットフォームにして映画祭にしてしまおうと思いついた」と振り返る。

昨年12月から知り合いのほか長岡造形大学のOBや映像専門学校に呼びかけ、総勢7人で実行チームを立ち上げた。エントリーした人のうち、希望者には基本的な撮影方法をリモートで伝授。高野さんは「プロでは思いつかないような撮り方や発想もあり、多彩な作品が集まった」

# 「スマホ映画祭」長岡を発信

と話す。映画祭は、今後も定期的に開催する予定だ。長岡市出身の高野さんは「CM広告に興味を持ち」地元の高校を卒業後、大阪芸術大学に進学。ただ在学中に映画に関わりたと思うようになり、卒業後に渡米した。ある音楽プロデューサーから声がかかり、1年ほど音楽イベントのカメラマンとしてエンターテインメントを肌で学んだ。

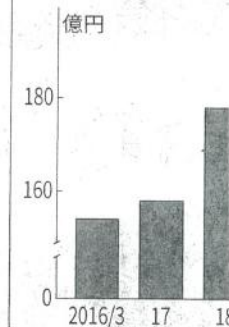
その後、ロサンゼルスにある世界的に有名な映画学校に入学し、修士課程を修了。在学中からフリーランスで映画制作に携わった。ロサンゼルスと日本を往復する生活が続いたが2019年、長岡に帰郷。昨年12月に映像を核としたプロデュース事業を手掛ける「THE TWO」を起業し、映像制作のほか地元の高校や大学で後進の指導にもあたっている。

スマホで魅力を伝える手法は「各地域の課題解決の手段になる」と自治体への売り込みも視野に入れる。究極の目標は「長岡発で世界に通じる映画を撮ること」だ。（小田原芳樹）



ミマキエンジンはイ効率や品質の改善

## インクの売り上



目となる「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は、ポストコロナ時代に向けた新たな芸術祭として、感染症対策や作品の準備を進めて

# カレー新潟駅



三幸製菓グループで、飲食店やネットカフェ、フィットネスクラブなどを手掛ける「カレー」の3種類は3600万を目標とする。

# イベント出店を仲介

## 長野県、キッチンカーなど

サイト開設



長野県は、キッチンカーや移動販売車などで営業する県内事業者と、出店を探している県内外のイベント事業者をマッチングするサイト「販売機会マッチングNAGANO」を写真で開設した。新型コロナウイルスで苦境に立っている飲食業の支援にもつなげる。

イベントにブース出店できる県内の飲食店や小売店、生産者などが、どういった内容の出店ができるかを登録。イベント事業者側はいつどこで開くかを登録し、お互いに希望の相手を探してマッチングする。

サイト上でメッセージのやりとりをして、出店交渉につなげられる。情報の閲覧などはスマートフォンからでも可能。出店者、イベント

## 信州ハム

# 職人厳選の新セット

食肉マイスター取得者考案



ドイツの国家資格取得者が考案したソーセージなどを詰め合わせた「ドイツの国家資格取得者が考案したソーセージ」などを詰め合わせた。新型コロナウイルス禍の外出自粛が続くなか、家庭の非日常の豪華な食事用などとして売出す。

新商品は「マイスター・スペシャルセレクション」。ソーセージは2種類を用意し、そのうちの1つがゲッティンゲンブルスト。牛の練り肉と豚の粗びき肉、スパイスを使った独自の伝統的な料理

ハム・ソーセージ製造の信州ハム（長野県上田市）は20日、自社の職人

が厳選した加工食品のセットを発売する。ドイツの国家資格である食肉マ

# 特例事業承継税制

相続・贈与税負担軽減のための申請支援 (2023年3月末まで)

自社株承継